

事務局から

▼世取山洋介さんが急逝されました。最近の研究所とは疎遠になっていましたが、まだ59歳。若すぎる死を悼みます。ご冥福をお祈りするとともに、研究所から弔電を送りました。

▼コロナ禍、今年度の総会を対面とZoomで開催しました。新潟から遠い湯沢町や県外からの参加者もありました。所員会議も、無料版のZoomとTeamsを使って、それぞれ1回開催しました。自宅にいなから、会議に参加できることは大きなメリットと感じています。議案書にあるように、Webを活用しての学習会や会員交流会の実施を検討していきたい。

▼事務所を山崎ビルの2階から3階へ移して1年余り。ところが、オーナーさんからビルを壊すために、来年8月までに退去をお願いしますとの連絡が届きました。事務所をどうするのか、今後のことも考えながら検討を進めます。

▼2008年から始まった教員免許更新制が、ようやく来年度で廃止になります。一方で、再来年から文科省は、教職員の管理統制をすすめるような「新たな教師の学び」の研修

の強化を推進しようとしています。廃止で安堵とはなりません。要注意です。
(和澄利男)

編集後記

▼今号を編集の最中に、県内外で中学生を巡る痛ましい出来事が起きました。LINE、インスタグラムなどのSNSで自らが情報発信できる今、自死した生徒、同学年生を刺殺させた生徒は、自身の悩みを相談できる先生・大人・友人などが身の周りにいなかったのでしょうか。気になります。

▼長らく原稿執筆をお願いしてきた方から、「北から南から」の原稿が届きました。共に、小中学校時に関わった教師のことを記しています。現役時代のお二人の教育実践や組合活動などを知る者として、その活躍の源泉の一端を知ることができ、嬉しく思いました。

▼近藤明彦さんの巻頭論文で今の若者は、「紛争回避型」の傾向を強めていると、指摘しています。その傾向をもたらししている要因の一つは、学校にもあるのではないのでしょうか。

例えば、ゼロトレンスの生徒指導。「チーム学校」として、教員は教育活動に取り組むことなど。要検証です。▼戦争や平和に関わる学習は社会だけでなくはないと思ひ、理科でも平和学習に取り組んできました。今号では、国語での実践を五十嵐さんから紹介していただきました。石垣りんは、高等小学校卒業後14歳で、日本興業銀行に就職し定年まで勤めます。この詩は32歳の時の作品でした。

(和澄)

にいがたの教育情報 No. 135

2021年12月22日発行

編集・発行 にいがた県民教育研究所

発行人 小林 昭 三

〒951-8116

新潟市中央区東中通1-86 山崎ビル

TEL・FAX 025-369-0671

振替口座・00640-0-12332

Eメール kyoiku@triton.ocn.ne.jp

印刷所・神林印刷

TEL 0254-66-7959

本誌内容の無断転載を禁じます。